

# 会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<del>会 議</del> <del>→ 打合せ →</del> <del>協 議</del>	文書番号	安政推第 号
		決裁期日	令和8年2月24日
名 称	令和7年度 第4回安平町未来創生委員会		
日 時	令和8年2月20日 午前・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">午後</span> 1時30分～3時20分		
場 所	総合庁舎 大会議室		
出席者	委 員 未来創生委員会委員 10名 外部有識者 3名 安 平 町 事務局（政策推進課）4名		
会議概要	<p><b>1 開会</b>          ◇過半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言          ◇委員長挨拶</p> <p><b>2 自己紹介</b>          ◇委員の変更について。当日急遽欠席となり挨拶は省略</p> <p><b>3 議事</b>          (1) 前回の振り返りと本日の議題の確認について          ◇資料に基づき説明：事務局          ◇質疑応答要旨</p> <div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; border: 1px solid black;"> <p>&lt;質問者&gt; ・なし</p> </div> <p>(2) 第3次安平町総合計画策定について          ◇資料に基づき説明：事務局          ◇質疑応答要旨</p> <div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; border: 1px solid black;"> <p>&lt;A委員&gt; ・早来学園（9年生）と追分中学校（3年生）のアンケート結果で、町への愛着度や評価に差（追分の方が高い）があるが、その要因をどう捉えているか。</p> </div> <div style="padding: 5px; border: 1px solid black;"> <p>&lt;事務局&gt; ・追分中の3年生は20名以下の少人数で、幼少期から地域行事を通じて密なコミュニケーションがあり、地域への誇りと安心感を持っている。都会への修学旅行後も「追分が落ち着く」という声がある。 ・早来学園は移住者の割合が高く、人の流動性が高いため、居住期間の短さが数値に現れている可能性がある。ただ、早来地区でも半数以上が「好き」と答えており、一定の安心感はある。</p> </div> <div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; border: 1px solid black;"> <p>&lt;B委員&gt; ・「商業・観光」分野の満足度が前回より大きく向上している理由は何か。</p> </div> <div style="padding: 5px; border: 1px solid black;"> <p>&lt;事務局&gt; ・自由記載や愛着度調査の結果を総合すると、道の駅「あびら D51ステーション」が拠点となり、多くの観光客が訪れ、特産品の販売にもつながっていることが高評価に繋がっていると分析している。</p> </div> <div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; border: 1px solid black;"> <p>&lt;A外部有識者&gt; ・示された「5つの幸せ」と行政の「6つの政策分野」がリンクしにくいという話があったが、幸せの形を年代別や属性別にさらに細分化することで、計画の体系と紐付けられるのではないか。</p> </div>		

<事務局>  
・ワークショップは、子どもから大人まで多様な参加があったため、詳細な属性分析まで至っていない。今後、プロジェクトチーム内で接続方法（現実との間をつなぐもの）を検討し、より具体的な施策に展開していきたい。

<C委員>  
・アンケート結果で、当たり前前（前）のことが当たり前前（前）に行われることへの期待や、それが欠けた時の不満が強く出ていると感じる（例：生活インフラの重要度向上と満足度低下）。

<事務局>  
・全国的なインフラ事故などの影響もあり、「当たり前前（前）であり続ける大切さ」が数値として現れたと認識している。

<B外部有識者>  
・総合計画の「主語」を、役場（職員）ではなく「私たち安平町民」にすべき。島根県海士町の事例のように、住民一人ひとりが「自分に何ができるか」をイメージできるような、絵本のような親しみやすい計画書を目指してほしい。

<事務局>  
・主語の意識は非常に重要。特に基本構想の部分などで、町民の皆さんの思いをしっかりと反映し、自分たち（行政）側に引き寄せすぎないように意識して進める。

<D委員>  
・災害時に「アピラチャンネル（告知放送）」が見られない地域がある。自動的に音声が入る個別受信機の導入など、実効性のある防災体制を基本計画に盛り込んでほしい。  
・移住者が増えた地域で、道路が未整備で春先に泥だらけになる場所がある。正規の舗装でなくとも、砂利を入れるなどの巡回・補修を強化してほしい。

<事務局>  
・道路補修については、前回の会議後すぐに建設課へ伝えている。できることを一歩ずつ進めている。  
・防災無線等の検討も、個別の意見を踏まえながら計画づくりに反映させていく。

### (3) 安平町デジタル田園都市国家構想総合戦略について

◇資料に基づき説明：事務局

◇質疑応答要旨

<C外部有識者>  
・交付金事業のナッジを活用した「オーバーツーリズム対策（交通安全等）」とは具体的に何を計画しているか。

<事務局>  
・菜の花シーズンに、観光客が商品である菜の花畑に立ち入ってしまう被害が出ている。専門家を招聘し、農産物への被害を防ぐための動線作りや軽減策についてナッジを活用できないか検討していく。

<C委員>  
・町内のデザインを学ぶ人たちが、役場のプロジェクト（エンブレムデザイン等）と連携できる仕組みを作れないか。

<事務局>  
・すでにスマートワーク推進プロジェクトの卒業生に仕事を依頼する実績が出始めている。今後そのような方向性で進んでいくと考えている。

### (5) 令和7年度における追加的物価高騰対策事業について

◇資料に基づき説明：事務局

◇質疑応答要旨

<質問者>  
・なし

## 6 その他

◇全体的な質問等について

<E委員>

- ・苫小牧市では2023年9月1日に「FMとまこまい」が開局され、地域の情報を提供し活性化に寄与している。災害など有事の際には、ラジオ電波は活用しやすいため、東胆振1市4町でFMとまこまいを聴くことができる環境を整備する考え方はないか？
- ・ラジオ局については、自身の被災経験から、有事の際の迅速な避難情報伝達には広域連携（1市4町）での情報共有が不可欠だと感じている。長い目で検討してほしい。

<事務局>

- ・災害時の補完としてご提案と認識するが、事務局は現状「アビラチャンネル」を基本線としている。
- ・ラジオ局の実現可能性について、「定住自立圏共生ビジョン懇談会」などの場でもぜひ話題に出してほしい。

<E委員>

- ・「日本一の教育のまち」を掲げ、『自分が世界と出会う場所』をコンセプトに早来学園が開校したが、コンセプトに沿った具体的な取り組み事例が知りたい。
- ・また、国際交流事業について、毎年実施している事例や今後の展開なども知りたい。

<事務局>

- ・総合的な学習の時間などにおいて、子どもたちは学校という枠を越えて社会や地域の人々と日常的に出会い、多様な視点から「世界」を捉える力を養っている。また、学校を地域に開放することにより、様々な団体が同じ校舎内で活動し、その様子が児童生徒の目にも触れることで、子どもたちが「多様な大人の世界」と日常的に出会う環境が作られている。
- ・国際交流事業については、学校で毎年実施していないが、来年度は追分小と早来学園で台湾との交流事業を予定

<E委員>

- ・ほとんどの市町村に総合体育館がある中、安平町の既存施設は気軽に利用できない実態がある。部活動の地域クラブ化や放課後の子どもの居場所、町民の健康増進の観点から、総合体育館として活用できないか。

<事務局>

- ・放課後の居場所づくりや町民の健康増進、部活動の地域展開を踏まえると、子どもも大人も「予約なしで気軽に使える」時間帯を確保していくことは重要だと認識している。町としても、学校施設・社会教育施設をより地域に開いた形で活用する方向で、利便性向上に取り組んでいく。クラブ化に関しては、早来学園の卓球部が指導者不在により移行が難しい状況もあることから、対応として地域開放区域である「まなびお」を週2回、児童生徒が自由に過ごせる形で開放し、卓球台も用意して遊べる環境を整える方向で準備中。開始は2学期からを基本としつつ、体制や安全面の整理が整えば、GW明けから前倒しによる開始も視野に入れて調整中。併せて、まなびおの施設活用についても、クラブが使用しない曜日・時間帯を活用した一般開放枠の設定に向けて、関係者と協議を進める。町民センターについても指定管理者と相談を開始しており、指定管理者側で一般開放枠の設定が可能となれば、まなびおと合わせて2カ所で「気軽に使える枠」を確保できるよう取り組んでいく。

<E委員>

- ・みなくる近くの早来学園まなびおが夜21時まで開館しているので、そこで鍵の授受ができるようご検討いただけないか。

<事務局>

- ・「みなくる」は健康福祉課管理施設、「まなびお」は教育委員会管理施設という位置づけのもと、管理側と利用者双方の合意のうえで成り立っているものと認識。今回のご質問に関し、利用者としては利便性を高めるものというお考えは理解しつつも、どの利用者がどういった使用をされたか、適切な利用をされているのかを管理側としては把握する必要があり、カギの最終所在はどうなっているのかの確認などを含め、次の利用者に満足して利用いただけるように努めている。「みなくる」は無人の施設ということもありご不便とお考えのことと思うが、現状どおりの取扱いとさせていただきます。

7 閉会 (15 : 20)

以上